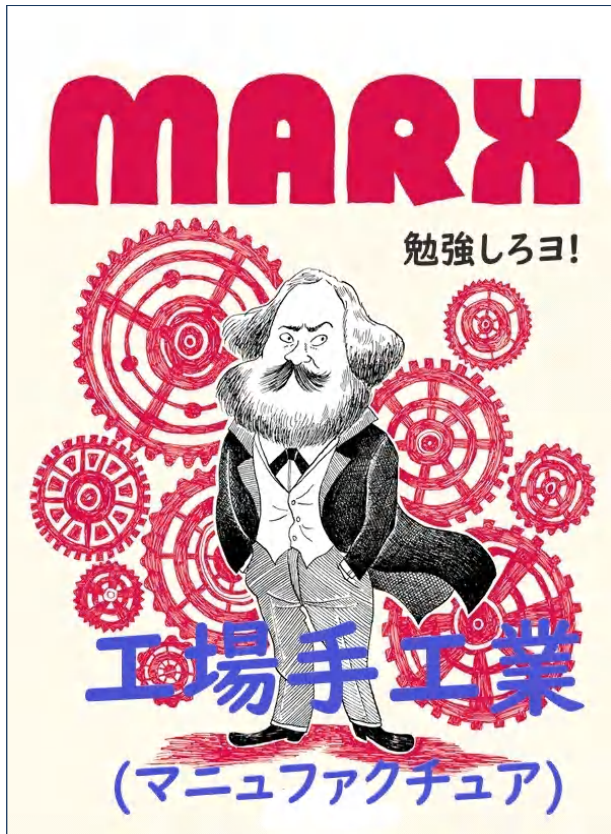


次回10月学習会
第32回「資本論を読む会」は

DAS KAPITAL



日時：2021年10月28日（木）
午後6時30分からオンラインで

「第12章 第3節 工場手工業の二つの基本形態—異種工場手工業と有機的工場手工業」(岩波文庫(二)281P)からです。

9月28日の「資本論を読む会」は10名の参加でした。総選挙が近くなって選対業務に追われている方はご苦労様です。ご健闘をお祈りします。

今回は「第12章 分業と工場手工業」の第1節と第2節を終わらせて、第3節を「読むだけ」にしました。この第3節の討論は次回にやります。

マニュファクチュア(工場手工業)の発生についてが今回の中心的なテーマでした。フムフム…とばかりも行きませんが、有名な下りですから難しい疑論もありません。

討論後の自主懇親会は、「読む会の3周年」をお祝いするT座長の乾杯音頭で、旭川市長選挙や自民党総裁選挙、とくに立憲民主党の公約に対する評価などではヒートし、話題は尽きませんでした。夜中12時を過ぎちゃいましたから「飲み過ぎた」方もいらっしたようですね。

次回も初参加の方歓迎です。楽しくやりましょう。

◎「資本論を読む会」3周年の感想をホームページから「BBS掲示板」に書いてみませんか

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/> 「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから--Kai

第十二章 分業と工場手工業

第1節 工場手工業の二重の起源

■【分業に基づく協業】が特徴的形態である。

■工場手工業は、生産過程に分業を導入し、発展させ、諸手工業を結合する。

※起源の1.——種々の独立手工業が、同じ資本家のもとで、同じ作業場に集められ、労働をする。これによって、特殊な労働をもった者の集まりであったものが、次第に、だれでもできるような労働に分割される。

◎『種々の種類の独立手工業の結合』から出発する。これらの手工業は非独立化され、一面化され、相互に補足しあう部分作業となる。

※起源の2.——同じ仕事をする多数の手工業が、同じ資本家のもとで、同じ作業場に集められ、労働をする。

これが、大量の完成品を一定の期間内に生産させられる等により、それぞれの労働者が完成品をつくるのではなく、作業を分割して部分的な労働を行なうようになる。

◎『同種の手工業者たちの協業から』出発し、この手工業を、種々の特別の作業に分解し、分立化し、独立化する。

第2節 部分を担う労働者と道具

* 一労働過程の種々の作業が分離される。

* そして、各部分作業が、専属的な形態をとることにより、道具の変化が求められる。

* 同種の道具が、特殊な用途のために、部分労働者の力量に対応するために、特殊形態となる。

* 部分労働者の特殊機能に対応する労働用具をつくり、用具自体を単純化し、改良し、多種類にした。

【バーミンガムでは、特殊な一生産過程に対応させ、同一過程内の諸作業に対応させるため、約500種のハンマーが生産された。】のであります!!

